



三愛学園

児童養護施設さんあい

一時保護施設

三愛子ひつじ寮

社会福祉法人 三愛学園

〒369-0212 埼玉県深谷市榎挽 15-2

Tel 048-585-0605 Fax048-585-0562

Mail san-ai@isis.ocn.ne.jp

URL san-ai-jidouyogo.org



たとえ私たちの外なる人は衰えても、

内なる人は日々新たにされています

理事長 高瀬一使徒



皆様、新年明けましておめでとうございます。

三愛学園で生活する子どもたちや若い職員にとって年末年始は様々なイベントがあり心わくわくする時期だと思います。でも私にとってはまた一つ歳をとることであり、肉体的な衰えを感じる節目となっていて楽しくもあり憂鬱にもなる時期です。昨年11月に6年ぶりに高校の同窓会に出席しましたが、暫く見ないうちにお互い誰だったか確認できないくらい外見は変貌していました。(笑)

命あるものは必ず衰えていつか最後の時がきます。ただ聖書には人は肉体(外なる人)の衰えはあっても、霊・精神(内なる人)は、神様により日々新たにされると記されています。そして神様はすべての人に「あなた自身を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい」という人生を歩むことを望んでおられます。ですから今年も法人理事長として、健康には十分に気を付けながら少しでも子どもたちと職員のためになるよう神様に頼りながらチャレンジしていきたいと思います。具体的には2026年に法人創立50周年の節目を迎えるにあたり幾つかの記念事業を計画していますので、その準備に注力していきたいと考えています。

さて、9月にお届けした三愛新聞以来、三つの大きなことが進展いたしました。一つめは、開設が遅れていた地域小規模児童養護施設(定員6名)が1月1日より始動いたしました。これにより本園は5ホーム30名と一時保護所12名となります。二つめは、昨年来関係者と調整してまいりました隣地の取得が完了いたしました。土地面積は約2700㎡ありますので、今年から駐車場とミニサッカー場、そしてドッグランとして整備し使用する予定です。三つめは自立援助ホームの動きです。「子ひつじ寮」は9名定員で変わりありませんが、入所してくる児童は就労より就学を中心に生活している方々が多くなってきています。全国的にも同じ傾向にあることから、国から各ホームに支給される一般生活費が大幅に増額されました。このことにより利用者が学業に集中でき、且つホーム側の支援も厚くなりました。

最後に昨年10月から郵便料金の大幅値上げにより年賀状でのご挨拶を失礼させていただくことになりました。この三愛新聞をもってご挨拶に代えさせていただきます。

本年も皆様の変わらぬご指導とご支援を、よろしくお願いいたします。

大きな林の小さな家



児童養護施設さんあい 施設長 平本 実

「わぁ、本当のおうちみたい!」、新しい地域小規模施設に足を踏み入れた子どもたちの言葉です。この1月より本園の6つあるユニットのうちのひとつ「ねむのき」が隣接する民家に移動し、新たな生活が始まりました。

さんあいには子どもたち6人が一つのユニットを形成し、固定された職員が担当をすることでより家庭的な環境での養育を目指しています。ただ、建物は長屋のような造りで隣接するユニットの様子も良くわかり、他ユニットの職員の出入りもある上に、事務所やホールもあることから施設という雰囲気は拭いきれません。

新しい「ねむのき」は、さんあいから目と鼻の先の距離ですが、独立した家屋です。一軒家で「本当のおうち」のような環境である一方、これまでのように長屋のおとなりさんに相談に行ったり、助けてもらったりすることが難しくなります。

そのため職員の定数も増やし、施設長はじめ管理職もできるだけ様子を見に行く機会をつくって風通しを良くすることで、子どもや職員の困りごとに対応できるようにしたいと考えています。また、これまで取り組んできたユニットを超えた職員の協力による行事運営や、毎週的全職員による会議を通しての課題解決は引き続き実施して、職員の孤立がないように努めます。そして何よりも創立以来の理念を共有することで一体感を保ちつつ、多様なニーズに応えられるさんあいとして成長していきたいと考えています。

さんあいという大きな林の中にできた小さな家のことも、皆様の祈りに覚えていただけますと幸甚です。



「失敗したら戻っておいで」と言える喜び



三愛子ひつじ寮 ホーム長 佐藤 透子

今年度の児童福祉法改正により、子ひつじ寮の支援体制も大きく変わりました。一般生活費の引き上げで、利用料の本人負担はほぼなくなりました。昨年度までは「利用料を払えなければ退寮」という大きなプレッシャーの中で、利用者は仕事探しを強いられる毎日でした。今年度は「仕事が続かなくても、きちんと休養してから転職すればいい」と言えるようになり、職員側も余裕を持って支援できるようになりました。

また、児童自立生活援助事業の開始により、自立の考え方が柔軟になりました。具体的には、自立の目安を年齢で区切らず、利用者の現況や本人の意向を考慮すること、自立の準備が整っていない社会的養護経験者は、再び支援を受けられるようになったことなどです。子ひつじ寮にも、この事業を使って再スタートを切った利用者がいます。発達障害がありながら、以前は「普通がいい」と言っていた本人も、家庭復帰や一人暮らしで様々な苦難を経験した末、障害を受容し、それでも夢を持ち続け、自主的に仕事に出るようになりました。実家を持たない利用者に「失敗したら子ひつじ寮に戻っておいで」と言える社会的基盤があるからこそ、彼らは思い切って羽ばたけるのではないかと思います。

新年の抱負 令和7年の目標を漢字一文字にしました

一

【ねむのき】地域小規模ホームに引っ越しをしました！新しい環境に職員も子どももまだまだ慣れません。本園での生活が当たり前に送れるように、今まで以上に子どもたちの気持ちに寄り添いながら一緒に生活していきたいと思います。新たな気持ちで、ホームみんなで一からねむのきを作っていけるよう頑張ります！

活

【いちょう】2025年は1人1人の個性を尊重し合い、子ども達も職員も変わらず元気いっぱい活発に過ごしていければと願っています！元気が溢れる子ども達に、職員も負けないう、パワー全開で関わっていきたいと思っています！！

感

【ぼぷら】ぼぷらの子ども達は感性が豊かな子が多く、笑ったり泣いたり忙しく、表情もくるくる変わり、感覚センサーが敏感です。芸術的センスが素晴らしい子や発想が職員には思い浮かばないほど豊かな子、ダンスや音楽に刺激を受けている子など様々です。今年はその素晴らしい感性をさらに磨いてもらいたいです。日常生活の中で五感を最大限に活かせるよう、さまざまな体験をする機会をたくさん作りたと思います。

挑

【ひのき】ひのきの子どもたちは力があるのに“失敗したくない”“面倒くさい”を理由に新しい事に挑戦しないので、2025年は失敗を恐れずに挑戦してもらいたいという気持ちを込めて“挑”にしました。また子どもも職員も夢や目標に向かって挑戦していこう！という思いも込めています。失敗を恐れないで、いつまでも挑戦する気持ちを忘れず、何事もやってみよう！と周りを引っ張ってくれるような人に育ててほしいと思います。

穏

【もみのき】もみのきは喜怒哀楽がとても豊かな部屋です。楽しい時は楽しみ、怒るときはたくさん怒っている。喜怒哀楽がある事はとてもいいことです！去年はたくさんの感情を出した年だったと思うので、今年子どもも職員も喜怒哀楽を大切にしながらも、穏やかな毎日を過ごすことができるといいなと思います。

思

【かしのき】かしのきは「思」という文字を選びました。日々の小さなトラブルは日常茶飯事、時にはケンカをしまい相手に心無い言葉を投げってしまう場面もありました。また物の扱いについての課題もたくさんありました。それでも、優しい気持ちをもたくさん持っているかしのきの子ども達。まずは自分を思いやる気持ちを忘れずに、自分自身を大切にすること。そこから少しずつ周りの人や物にも思いやりの輪が広がって行けばいいなあとと思っています◎

挑

【女の子オーブ】去年は職員も大幅に変わり、慌ただしい1年でした。今年は一時的保護だから、短い期間だからと決めつけずに、どんどん新しいことに挑戦し、もっと子どもたちが安心・安全に暮らせるような環境作りに務めていきたいと考えています。そのためには職員一人一人が子どものために何ができるのか、それぞれの意見もしっかり発言することができるよう職員にとっても安心できる環境作りにも挑戦していきたいと思います。

傍

【男の子オーブ】境界線はあっても心では子ども達に寄り添って話を聞き、そのこどもの個々に合った豊かな生活や生き方ができる様に支援をしていきたいと思っています。具体的な例としては、規則正しい生活パターンを身に付けるために、何が苦手なのか一緒に考える。また、きちんとした挨拶ができるように大人が手本を見せる、といった実践をすることで一時的保護という限られた期間の中でできることを見出していきたいと考えます。

さんあいの クリスマス

12月1日、みんなでカウントダウンをして中庭のもみの木に灯りをともしました。各部屋前のイルミネーションも輝き、アドベントが始まりました。



点灯式

さんあいに来てくれたサンタさん

毎年たくさんのプレゼントを持ってさんあいに来てくれるVチューバーの九条サンタクロースと、カッコいいスーパーカーに乗ってやってくるサンタルギーニのサンタさんたち。今年も子ども達にたくさんのプレゼントを持ってきてくださいました。いつも温かなご支援ありがとうございます。その他にも近隣や遠方の方からお菓子やおもちゃのプレゼントを届けていただきました。心から感謝申し上げます。



Vチューバーってこんなことをしていますよ、とお話しもしてくださいました。



カッコいいスーパーカーに子ども達の目も釘付けでした。

そして毎年みんなが寝静まったクリスマスの夜中、人知れず玄関の前にプレゼントを置いていってくださるサンタさん。直接お礼を言うことはできないけれど、子ども達は毎年喜んでいきます！



クリスマス会

第一部 礼拝

厳かな雰囲気の中、クリスマスのお話を聞き、キャンドルサービスの中で紛争の中にあるガザの人々のことを覚えて献金を捧げました。



第二部 祝会

第二部は楽しく明るい雰囲気の中、職員が心を込めて作ったお祝いの食事や、寄贈していただいたケーキやチキンをみんなで美味しくいただきました。

練習を重ねた子ども達の出し物や、新任職員の出し物も盛り上がり、楽しく幸せな時間を過ごすことができ、感謝しつつイエスの誕生を祝う会となりました。



ワクノビクラブによる
ペープサート



サンタとトナカイ登場に
大興奮！



女の子のダンス



幼児さんの可愛い歌声♪



新任職員による出し物

職員メンタルヘルス

11月28、29日にメンタルヘルスの取り組みとして、7名の職員で1泊2日の東京旅行に出掛けました。1日目は屋形船に乗って夕焼けから夜景に変わるお台場の景色を眺めながらのもんじゃ焼き食べ放題。景色の綺麗な豊洲で温泉も堪能しました(^)。2日目は上野散策。パンダは長蛇の列で断念しましたが、童心に帰って上野動物園を楽しみました。最後にアメ横を散策し解散。購入したお土産だけではなく、心に残るお土産をたくさん残せた2日間でした。

(加藤 碧)

ドッジビー交流大会

12月7日、近隣の児童養護施設の中高生同士によるドッジビーの交流大会を行ないました。試合に際しては、自分たちで考え、意見の食い違いがあっても話し合っって戦術を決めながら戦う姿はさすが中高生だと感じました。今回は、職員チームとの対戦もしました。そこでも、夏の県内施設の親善球技大会同様にその実力を発揮し完勝。一人ひとりがチームのために協力し、励ましあう姿に、子どもたちそれぞれの成長を実感する機会となりました。

(浅見)

イルミネーション外出

12月6日、お部屋のみinnで本庄早稲田駅近くのマリゴールドの丘へイルミネーションを見に行きました。冬も本番を迎え、夜間はかなりの冷え込みになりましたが、その寒さをも忘れさせるくらいの綺麗なイルミネーションでした。

小さい子も「あれってトナカイ？ すっごくきれい！」と喜んでいる姿を見て、計画をした職員としても大満足でした。

(奈良)



子ひつじ寮

子ひつじ寮の利用者一人一人の生活や心情は実に多様です。遠方の高校に登校するために朝5時30分頃には寮を出る人、何をモチベーションにしたらいいのか迷い悩んでいる人、自分自身の特性に気づきそれに向き合う人、交際相手との破局により自分の人生を考え始めた人等々、それぞれが抱える悩みや課題に一生懸命に向き合っています。良いことも悪いこともある中で、一人一人が人生に希望を持って歩んでいけるよう祈り、必要な支援をし続けていきたいと思ひます。

(渡邊)

男の子オリーブ

男の子オリーブでは現在、平日午前中に2コマの勉強、1コマの工作の時間を設けています。昼食後は自由時間です。自由時間には玩具で遊んだり、交流ホールでSwitchをしたり、パソコンをしたりしています。一時保護のため頻繁ではありませんが、近隣の公園や図書館に出かけることもあります。最近はお店と触れ合うことができるお店に行き、皆とても喜んでいました。ぶどうの木での動物のお世話も子ども達の楽しみの一つになっています。(加藤美香)

大掃除

11月14日、埼玉県民の日に大掃除を実施しました。さんあいの職員達はお掃除上手なので日頃からきれいな生活環境が整っていますが、普段掃除できない大型家電の裏側や高所など、innで協力しながらピカピカに！卒園生の男性3名も応援に駆けつけてくれ、手際よく洗濯機を移動したり、小規模施設用のベッドを組み立ててくれたり、園車2台のクリーニングも丁寧にしてくれたりと大助かりでした。このまま綺麗を保って新しい年も過ごしたいです。お部屋だけでなくinnの心もきれいになった一日でした。

(青木統括)

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。

ご寄付は同封させていただいた振込用紙、または下記の口座をお願いします。*お名前をお入れください*

埼玉りそな銀行 岡部支店(普) 0058888 7) 2774717 リゾ 3074717 外

編集後記 最近では「ゲリラ豪雨」という言葉を違和感なく聞いたり話したりするようになりましたが、先日「ゲリラ豪雪」という言葉を耳にしました。専門的な定義はないそうですが、突発的な雪氷現象をわかりやすい言葉にしたものだそうです。雪に慣れていない地域に住んでいるので、少しの積雪でも慌ててしまいますし、雪かきの後の筋肉痛も辛いので、できればゲリラ豪雪はおろか雪のない冬がいいなと思ひてしまいます。

(広報タスクチーム一同)